

伊豆半島グランドデザイン

～伊豆を一つに、世界から称賛され続ける地域を目指して～



伊豆半島 7 市 6 町 首長 会議

目 次

序 章 本グランドデザインについて

1. 伊豆における策定の目的	1
2. 期間	1
3. 構成	1

第1章 伊豆の姿

1. 伊豆の課題	2
2. 伊豆の地域構造	4

第2章 伊豆のグランドデザイン

1. 称賛され続ける世界一美しい半島へ	7
（1）基本理念としての「美しさ」の追求	
（2）美しい半島の具体的な姿	
（3）伊豆が提供していく価値	
2. 戦略展開の基本的考え方	10
（1）戦略の意義	
（2）戦略展開の基本姿勢	
（3）戦略の構成	

第3章 戦略計画

1. 基幹戦略 世界一美しい半島プロジェクト	13
2. 重点戦略	15
（1）交流産業クラスターの創出と再生	
（2）ネットワーク型交通・都市基盤の整備	
（3）柔硬一体のしなやかな防災・減災対策の構築	
（4）官・民協働による推進体制の再構築	

第4章 推進に当たって

1. 推進力の確保	21
（1）推進する仕組み	
（2）人材の確保	
（3）資金の確保	
2. 各主体の役割について	22

世界から称賛され続ける伊豆に向けて

参考資料

1. 伊豆半島地域のデータ	26
2. 伊豆半島グランドデザインの策定経過	31

序章 本ランドデザインについて

1. 伊豆における策定の目的

ランドデザインは、全体を長期かつ総合的に見渡した構想のことで、長期間にわたり遂行される大規模な計画を意味します。

伊豆半島についてのランドデザインは、伊豆を一体的・総合的に捉えた長期的視点に立つ地域づくりの方向性を示すとともに、中期・短期において直面する課題を解決し、地域の振興を図る戦略を構築することにより、地域の誇りと世界の中で輝き続ける伊豆の未来を創造することを目的として策定します。

2. 期間

本ランドデザインでは、長期・超長期的な視点（以下「長期的視点」という。）と、中期・短期的な視点（以下「中短期的視点」という。）の二つの視点に基づき、構想や戦略を示します。長期的視点は、30年先、50年先を見据え、中短期的視点は、おおむね5年程度、平成30年までを目指します。ただし、戦略の具体の展開としては、ともに5年程度、平成30年までの施策を取りまとめます。

3. 構成

本ランドデザインの構成として、伊豆の姿を考察・分析した上で、地域づくりの基本指針を示し、その上で、それに基づく戦略計画を記載しています。具体的には、下記の4つの観点から構成されています。

伊豆が直面している課題、地域構造に関する考察・分析

地域づくりの将来像の方向性、戦略展開の基本的考え方

戦略ごとに展開する施策と実施主体

推進における課題

第1章 伊豆の姿

1. 伊豆の課題

(1) 地域の現状

伊豆は詩の国であると、世の人はいう。
 伊豆は日本歴史の縮図であると、或る歴史家はいう。
 伊豆は南国の模型であると、そこで私はつけ加えていう。
 伊豆は海山のあらゆる風景の画廊であると、またいうことも出来る。
 伊豆半島全体が一つの大きい公園である。一つの大きい遊歩場である。
 つまり、伊豆は半島のいたるところに自然の恵みがあり、美しさの変化がある。

これは、川端康成が「伊豆序説」において、伊豆を評した文章です。

川端に限らず、伊豆は多くの文人・墨客に愛され、多くの作品にその美しい情景、風景が表わされてきました^{*1}。

自然、情景、動植物や食材、歴史・文学、温泉等の資源の多様性があり、しかもどれも魅力的で奥が深く、観光地の素材としてのポテンシャルは今も世界トップレベルにあります。これらは伊豆の強みとなっています。

しかし、伊豆は、日本・世界の中で際立って輝いているとは言えません。むしろ多くの観光地の中に吸収されそうな状況です。観光交流客は減少し、脆弱な交通網や災害等の脅威などで、域外からの新たな投資は活発に行われていません。その結果、雇用の機会が減少し、若者の流出と高齢化が進行し、地域の足腰は以前に比べ確実に弱まっています。

そうした中で、伊豆縦貫自動車道、新東名高速道路の開通など、命の道、地域の成長に資する基盤整備が進み、また、世界ジオパーク認定に向けた取組の加速や北部のファルマバレープロジェクトによりダイナミズムが生まれ、地域発展への大きな転機を迎えています。

(2) 課題

伊豆は、長期的視点で地域づくりの方向性を示すとともに、中短期的視点に立ち、こうした強みの発揮、弱みの克服、機会の利用、脅威の軽減について処方箋を描く必要があります。しかも、それぞれの地域がそれぞれに描くだけでは推進力に欠けます。伊豆は一つと言われながら、多様性がゆえにまとまらないことがこれまでの最大の弱点でした。川端が「伊豆半島全体が一つの大きい公園である。」と言うように、伊豆が心をついて、課題解決のための総合的な処方箋を描き、連携して未来へ向けた地域づくりを進めていく必要があります。

※1 井上靖「伊豆の海」

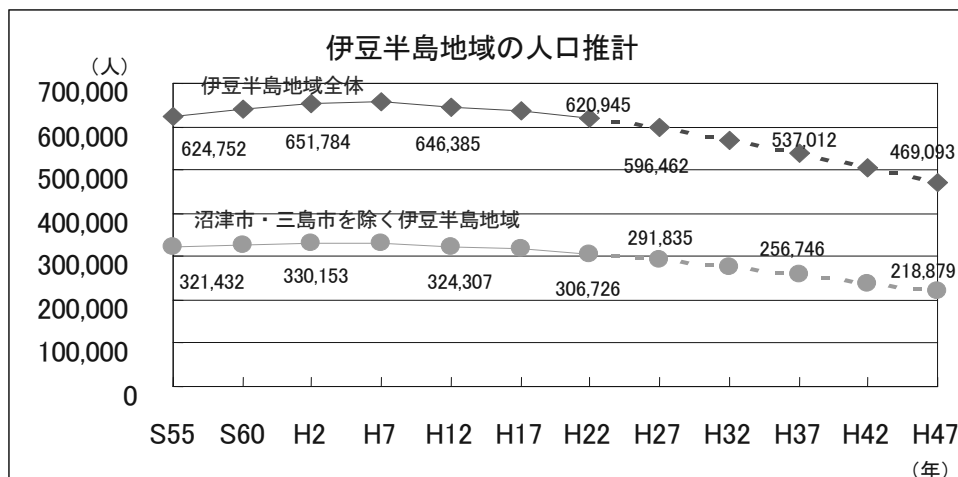
伊豆の旅の美しさは海の変化の楽しさである

芹沢光治良「伊豆の海岸」

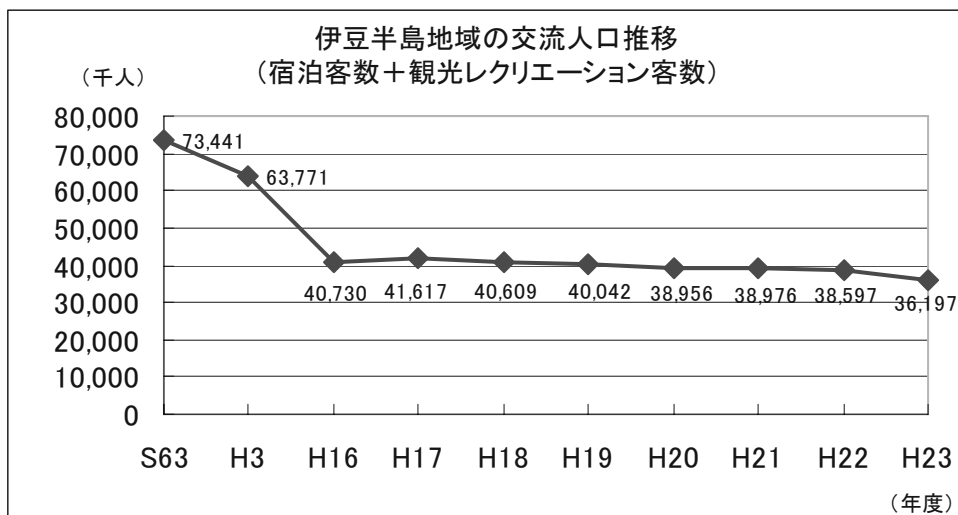
私はフルターニョを旅行しながら、伊豆の風景ばかりを思い出した。フランスで最も美しい海岸だというが、伊豆の海岸の方が風景に変化も多く、光が多いような気がした

【伊豆半島のSWOT分析】

	内部環境（現在）	外部環境（将来）
好影響	強み ○首都圏からの距離的な近さ ○温暖で住みやすい気候 ○豊富で特色のある自然資源 ○良質で多彩な観光・宿泊施設 ○歴史、文学の宝庫 ○長い歴史を経て築かれたブランド	機会 ○伊豆縦貫道供用拡大、新東名開通 ○世界ジオパーク認定（H27年目標） ○世界文化遺産登録（富士山、反射炉） ○羽田空港国際化、富士山静岡空港の充実 ○内陸フロンティア、ファルマバレー企業集積 ○アクティブシニア層の拡大、アジアの富裕化
	弱み ○域内の連携不足（伊豆は一つ一つ） ○交通渋滞等交通網の脆弱さ ○災害への脆弱性 ○生産年齢人口減少、高齢化 ○低い高次都市機能の集積	脅威 ○3連動、相模トラフ等の地震 ○台風、豪雨の増加 ○旅行支出割合の低下、価格競争 ○競合地域の拡大（格安航空、リニア整備） ○首都圏の大型集客施設
悪影響		



（出典：総務省国勢調査要覧、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成25年3月推計）」より作成） ※ 平成27年度以降は予測値



（出典：静岡県「観光交流の動向」より作成）

2. 伊豆の地域構造

(1) 地域構造の現状

伊豆半島は、三方を海に囲まれ海にせり出す形で山稜が連なるため、市街地は北部の平地に形成され、沿岸地域に小さな市街地や集落が点在する構造になっています。生活圏・商圈も同様に形成されており、人口重心は伊豆の国市（順天堂大学医学部静岡病院付近）にあります。

本地域は、伊豆という大きな観光ブランドは冠するものの、それぞれの観光地・温泉地の繋がりは弱く独自性が強い地域になっています。さらに、急峻な地形から北部地域の国土軸（東名・新幹線・東海道線等）から半島へ南進する幾筋の鉄道・道路のどれも幹線軸としては脆弱で、連携軸をつくりにくい分散型の地域構造でもあります。

(2) 地域構造の変化

現在、半島を貫く幹線軸となる伊豆縦貫自動車道の整備が進んでおり、今後 10 年で地域構造の大きな変化が予想されます。

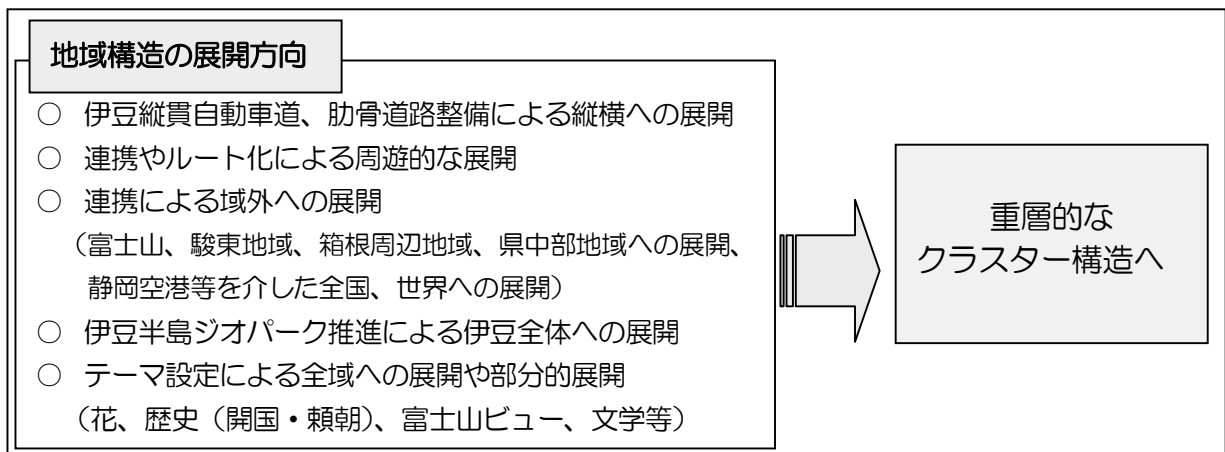
幹線軸の形成は、分散型の地域構造をクラスター状（ぶどうの房状）^{*2}の繋がりを持つ地域に変え、伊豆全体の域内交流が活発化するとともに、これまで交流がなかった地域内での新たな交流も生まれる可能性があります。また、箱根・富士山方面等との時間短縮など、地域外へ広がりを持つ地域構造を形成します。

(3) 課題

地域構造の変化を地域の発展へ結び付けていく絶好の機会が到来し、これまでの粒（それぞれの市町・観光地）のアピールに加え、房全体（伊豆全体）を強く発信していくことが求められます。

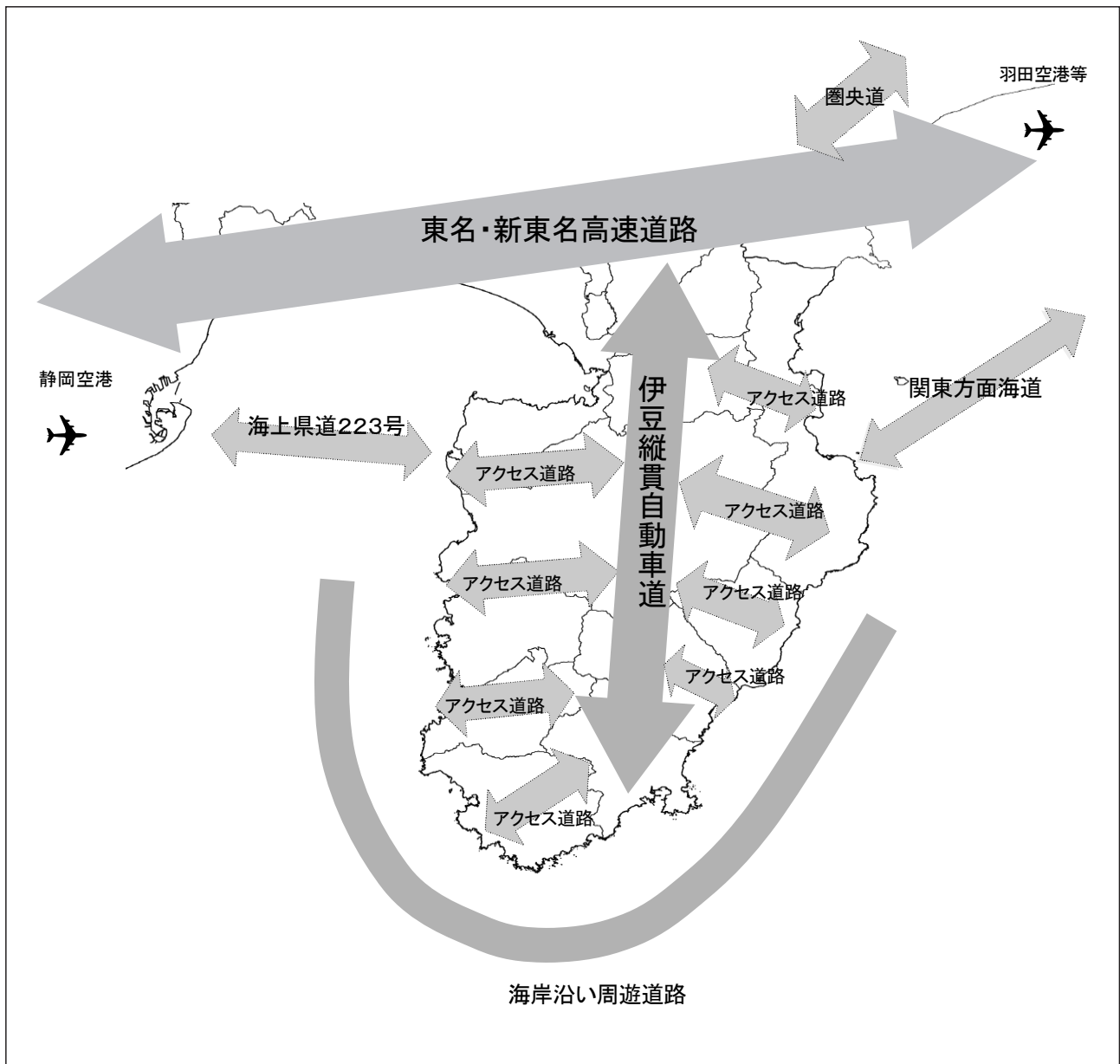
世界認定に向け動き出した伊豆半島ジオパークは、まさに新しい地域構造を提案するものです。これに限らず、伊豆全体またはもう少し小さな地域やテーマでの連携など、伊豆の魅力に変化を与える様々な地域連携の提案が可能です。

分散型の地域構造を重層型のクラスター構造にすること、すなわち市町・観光地それぞれが輝きながら、全体または部分的な集合体として魅力の多様性を発揮する地域構造へ変えることが伊豆の発展には不可欠であり、それを可能とする交通ネットワークや推進体制の整備等、地域連携の多様化を推進していくことが求められます。

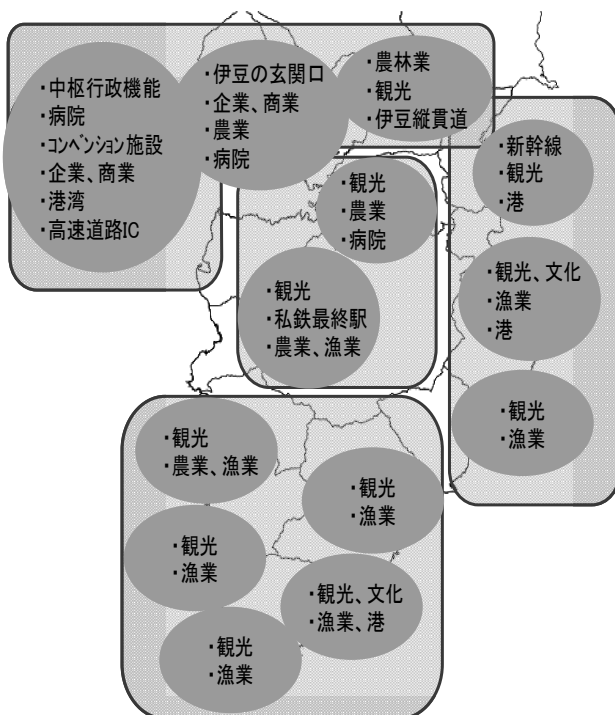
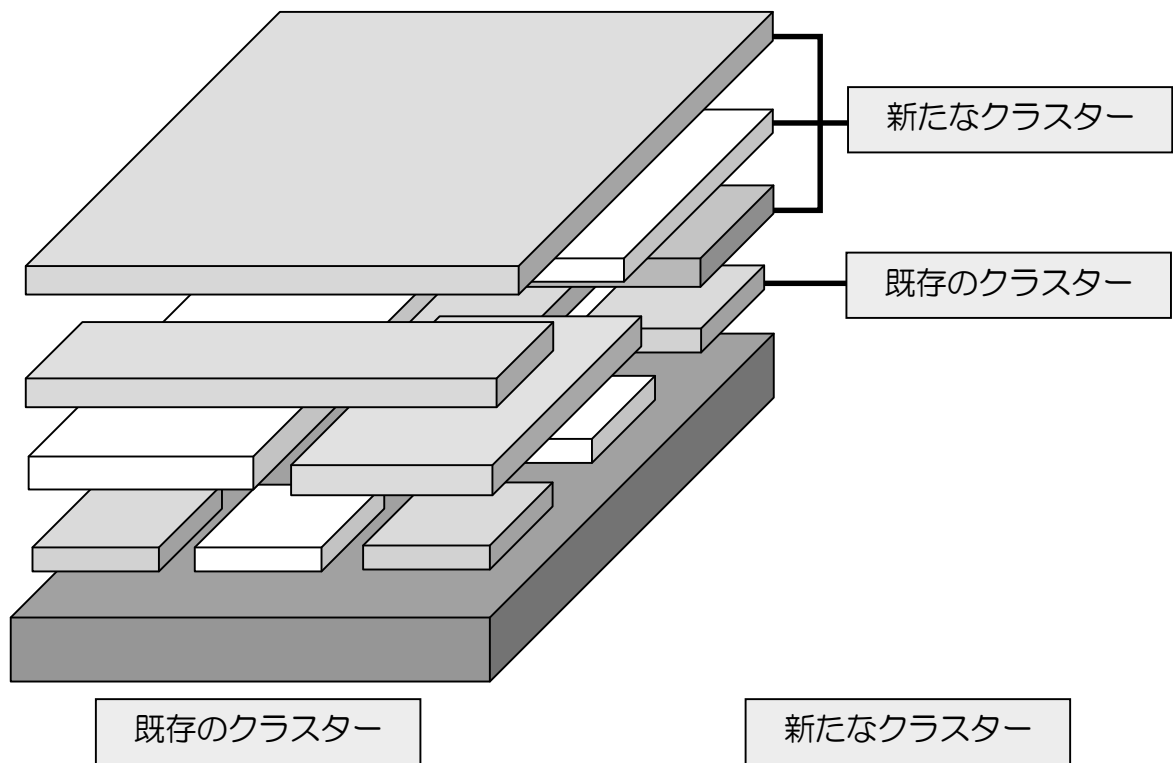


※2 クラスター：「房、集団、群れ」のこと。いくつかの単位がまとまって相互に連携しあうこと。

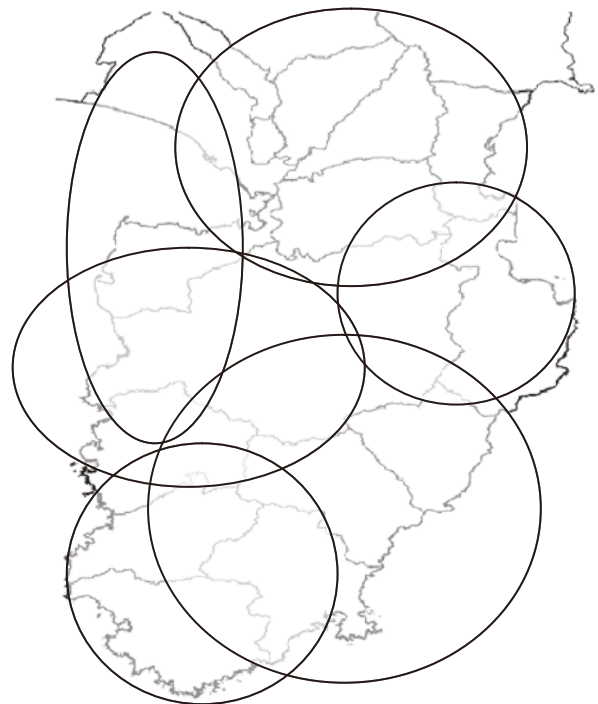
【伊豆の地域構造分析（１）】



【伊豆の地域構造分析（２）】



- 各市町の特徴
 - 温泉噴出地を中心とした観光地
 - 北部地域の都市機能
- 分散型のクラスター構造**



- 各種テーマ別
 - 産業別（観光関連中心）
 - 新たな交通網を活用（伊豆縦貫自動車道等）
- 重層的なクラスター構造**

第2章 伊豆のグランドデザイン

1. 称賛され続ける世界一美しい半島へ

(1) 基本理念としての「美しさ」の追求

地域づくりを進める上での時間軸は、大別すれば二つあります。中期・短期で地域を振興する地域づくりと、百年の計としての長期・超長期の地域づくりです。

前者は、その時々の課題・社会情勢・需要に的確に対応し、地域を元気にし雇用を創出することなどを目的とします。

後者は、時代を超えてぶれない意思や地域愛にも近い地域の独自性（アイデンティティ）を形作っていくものです。

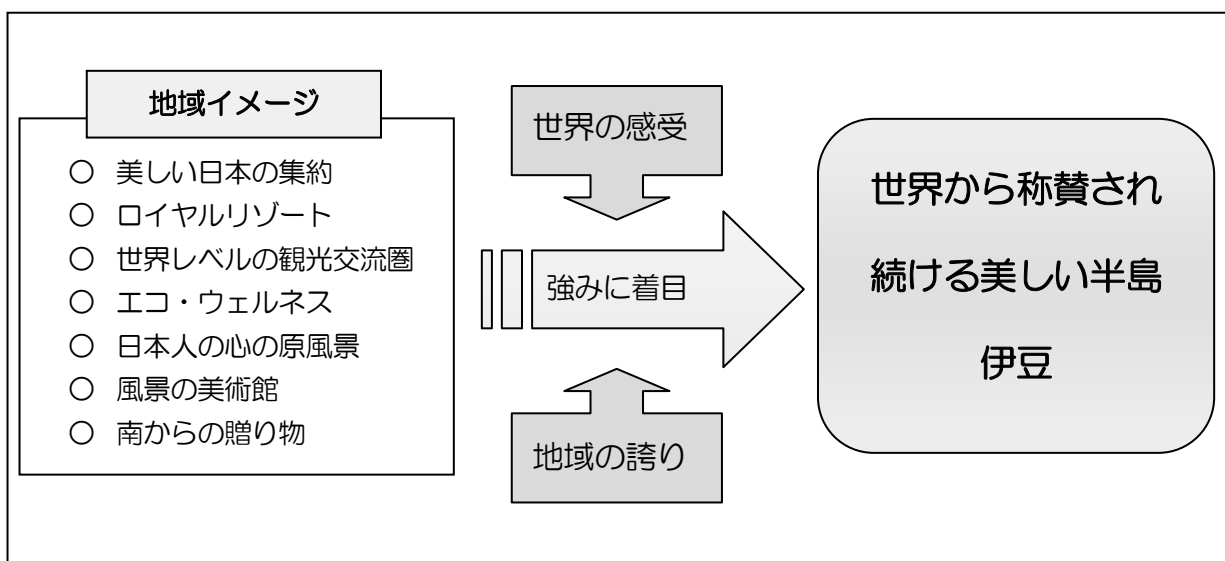
私たちは、未来に向かい、伊豆を伊豆たらしめる価値を見出し、それを大切にしたい地域づくりを進めます。それは伊豆を一つにするキーワードともなります。

伊豆におけるそれは、「美しさ」です。川端が、「一つの大きい公園である。美しさの変化がある。」と称したように、伊豆の最も特徴的な特質・価値は、「美しさ」であり、最大の強みです。

美しさを世界的レベルまで高めることが、世界の中での伊豆の存在意義（プレゼンス）を高めるとともに、そのことがまた若者も含めた未来の住人の誇りに帰結していきます。

同時に、今に生きる私たちは世界的な地域間競争を勝ち抜く必要がありますが、その際に、世界的に優位な強みである「美しさ」は、その際の差別化を実現し、さらに人・モノ・カネ・情報を伊豆に呼び込む求心力・発信力を有しています。

このため、私たちは伊豆を「世界から称賛され続ける美しい半島」にしていくことを地域づくりの基本理念とし、また目標とします。



(2) 美しい半島の具体的な姿

美しい地域は、伊豆以外にもあります。しかし、伊豆には「伊豆らしく」・「伊豆だからこそ」の美しさがあり、そのことにより多くの人から称賛され、また憧れる地となってきました。

伊豆らしい美しさは、変化に富み多様性を有する自然環境はもちろんのこと、視覚的に捉えられる外見的美しさのみならず、そこに暮らす人々が生き生きと生活し、伊豆独自の文化を形成するという内面的な美しさ、それぞれに結びつく中で輝き放たれています。

本グランドデザインでは、環境・営み・人における美しさに着目し、それぞれを高め、また結び付ける中でさらに美しい半島を目指します。

美しく変化に富む環境	地形、地質、動植物の多様性と相違性、潤いや品格を感じ取れる優れた都市的環境や集落の美しさ
美しく品格のある営み	美しい環境を構成する資源を起源として生まれた文化・生活様式、産業等の美しさ
美しく健やかな人	住まう人、訪れる人の心の充足や健康的な活動などの人としての美しさ

【美しい半島の具体的な姿】

美しく変化に富む環境	美しく品格のある営み	美しく健やかな人
○ 伊豆半島ジオパークとして世界的に特異な地形の歴史 ○ 学者も認める生物の多様性 ○ 美しく感動的な朝日・夕日 ○ 変化に富む海岸と森林 ○ 潤いのある都市環境 ○ 四季を通じた花の名所 ○ 品格のある街並みや集落	○ 宿泊施設の優れたもてなしやすさ ○ わさび田、棚田等箱庭的な一次産業 ○ 多彩な創作活動、芸術活動 ○ 市民によるまちづくり活動（グランドワーク活動等）	○ 健康、長寿を支える食材 ○ 登山、サイクリングコース等のスポーツ文化 ○ 心と体を癒す温泉や花 ○ 健康保養地づくり、かかりつけ湯等の癒しと健康

（３）伊豆が提供していく価値

私たちが、美しい伊豆を創造していく上で、大切にしていきたい価値（バリュー）として次の４つを提案します。これら価値とは、各主体が地域づくりに取り組む際の共通した認識となり、また行動指針となるものです。また、地域外の人にとっては、その地域から何を得ることができるかという期待となります。

価値を提供するとは、地域外の人に対してその中身や品質などを約束するものであることから、私たちはそのための最大限の努力を続けていくこととします。

【伊豆が提供していく価値】

美しさへの感動	世界有数と評される変化のある自然、それに関係を持つ営みや人々の暮らしぶりに触れ感動する
日本の縮図の体感	富士山、山間部・沿岸部の四季の彩り、歴史・文学・伝統等、日本の縮図を体感する
心地よいふれあい	施設でのおもてなし、イベントでの時間の共有、街中でのやりとりなど、人とのふれあいを楽しむ
心と体の充足	美しいものを眺め、きれいな空気、新鮮食材、温泉、癒しやスポーツ体験を通じ、心と体の健康、元気を回復・向上する

2. 戦略展開の基本的考え方

(1) 戦略の意義

伊豆が目指す地域の目標像を効率良くかつ確実に実現していくためには、効果的な施策を効率的に展開していく戦略が必要です。本グランドデザインでは、次の三つの視点で戦略を構築しています。

① 長期的、中短期的視点を同時に推進する戦略

長期的視点と中短期的視点との二つの地域づくりの目標を同時に進行する戦略であり、それぞれを有機的に結び付け、一体的に推進する戦略体系とします。戦略は、5年程度の具体の戦術を取りまとめます。

② 各地域の地域づくりの方向性を集約し、誘導する戦略

各市町の計画と本グランドデザインは、上位、下位の関係はなく、また、法的拘束力ありませんが、各市町の地域づくりの方向性を集約して策定し、今後の各市町の地域づくりに影響を与え、誘導していく戦略とします。

③ 多様な主体の参加による戦略

単に行政が行うものに留まらず、住民・NPO・事業者、さらには来訪者も含めた様々な主体に参加を呼び掛け、推進する戦略とします。

【本グランドデザインにおける戦略の特性】

長期的視点と中短期的視点を同時に推進する戦略

各地域の地域づくりの方向性を集約し、誘導する戦略

多様な主体の参加による戦略

(2) 戦略展開の基本姿勢

各主体が地域づくりを行う際の地域としての一体性を確保していくために、主体間で共有していく基本姿勢を示します。

① 競争を超えた連携（多様性の尊重と統一への協力）

地域の多様な個性を尊重し、それぞれが切磋琢磨し、競争をすることを前提にしながら、その上でその競争を超えて、地域間が戦略的に連携を図る姿勢で戦略を推進します。

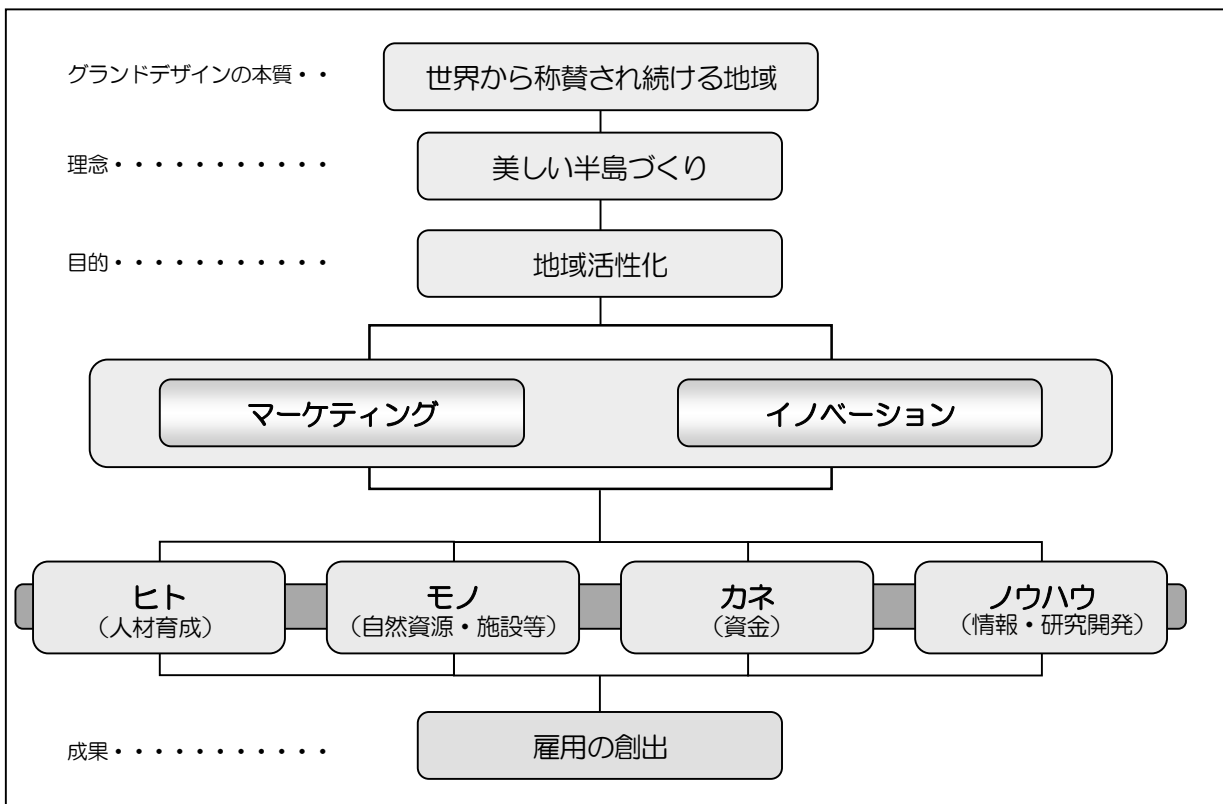
② マネジメントに基づく展開（マーケティング^{*3}とイノベーション^{*4}）

伊豆全体及び各地域・各主体が、今までにないやり方や仕組みで新たな価値を提案し、また、顧客・来訪者の立場から施策を立案・展開する姿勢で戦略を推進します。

③ 主体的な行動（各セクションの責任ある実行と攻めの連携）

何より重要なのは、自らが行動することであり、依存から自立・協力へ姿勢を転換して戦略を推進します。また、連携においても依存・守りではなく、主体・攻めの姿勢で戦略を推進していきます。

【マネジメントに基づく展開】



※3 マーケティング：顧客満足を軸に「売れる仕組み」を考える活動。顧客のニーズを的確につかみ、需要の増加と新たな市場開発を図る企業等の諸活動

※4 イノベーション：物事の「新機軸」「新しいやり方」「新しい活用法」を創造する行為のこと。それまでの仕組みなどに対して全く新しい考え方や技術を取り入れ、新たな価値を生み出すこと

(3) 戦略の構成

本グランドデザインでは、長期では、世界から称賛され続ける美しい半島にすることを旨とし、中短期では、長期の目標の実現を着実に推進するために、足元の雇用の創出を第一次目標とした交流の拡充及び定住の促進を目指すこととします。そのため、戦略は時間軸・目標の異なる二つの戦略体系に区分し、前者を基幹戦略、後者を重点戦略としてそれぞれを有機的に結び付け、一体性を確保し推進していきます。

① 基幹戦略

伊豆半島を、世界一美しい半島に高め、それを永続的に継承することを目標に戦略を展開していきます。伊豆半島ジオパークをこの戦略の中心となるリーディングプロジェクトとして集中的に推進するとともに、景観を阻害する電柱・看板等の撤去、各市町の取組の拡充等について、息の長い着実な展開を図ります。

○世界一美しい半島プロジェクト（伊豆半島ビーナスプロジェクト等の愛称化）

② 重点戦略

雇用の創出を図り、交流の拡充と定住を促進するため、その喫緊の課題でもある産業創造、基盤整備、安全安心の3分野及び組織戦略を加えた4戦略を集中して推進します。

○交流産業クラスターの創出と再生

○ネットワーク型交通・都市基盤の構築

○柔硬一体のしなやかな防災・減災対策の構築

○官・民協働による推進体制の再構築

【戦略の構成】

基本理念		世界から称賛され続ける美しい半島 伊豆	
戦 略	基幹戦略	世界一美しい半島プロジェクト	施策
	重点戦略	交流産業クラスターの創出と再生	施策
		ネットワーク型交通・都市基盤の構築	施策
		柔硬一体のしなやかな防災・減災対策の構築	施策
		官・民協働による推進体制の再構築	施策

第3章 戦略計画

1. 基幹戦略 世界一美しい半島プロジェクト

◆戦略のねらい

地域づくりの目標である美しい半島をつくりあげる基幹となる戦略として、様々な機会・機能を集約して、環境、営み、人の3面で「美しい半島」をさらに磨きをかけ、伊豆を世界ブランドとして確立・発信し、伊豆の存在感を高めます。

◆施策の展開

施策	実施主体
○伊豆半島ジオパークプロジェクトの推進 (リーディングプロジェクトとして、保存・継承のための仕組みを含め強かに推進)	伊豆半島ジオパーク 推進協議会 関係者等
○地域愛、地域ロイヤリティの醸成と向上 ・「伊豆学」の学習機会の提供 ・学校教育における地域愛を育む取組	市町 教育機関 地域住民
○各市町の美しいまちづくりの推進 ・各市町の施策の強化、広域的展開の検討 ・伊豆としての情報の共有 (例) スマートウエルネス、美しく品格のある邑	市町 首長会議
○美しさを阻害するものの戦略的排除 ・ビュー側からの電線・広告の撤去・移設(事業者へ呼びかけ) ・国道沿線等の廃屋等の解消(事業者へ呼びかけ) ・規制制度の見直しの検討(景観条例の基準等の調整を含む)	首長会議 市町 事業者 県 国
○官民の美化活動の活性化・広域化 ・花いっぱい、ゴミ拾い、アダプトシステム等の活性化と連携 ・河津桜等、花回廊づくり(フラワーデザインの策定と植樹等)	首長会議 市町 運動実施主体
○美しさに関係する産業の集積 ・ファルマバレープロジェクト、内陸フロンティア構想と連携した健康産業等の誘致 ・芸術活動の集積化(アトリエ、ミニ美術館等)	PVC* ⁵ 県 市町
○国際的な健康保養都市づくり ・108湯めぐり、かかりつけ湯等の推進 ・医療観光・福祉観光の推進 ・市町の健康づくり活動の充実・強化	協議会 市町 PVC

※5 PVC：公益財団法人静岡県産業振興財団 ファルマバレーセンターの略

【伊豆半島ジオパークプロジェクト】

○ジオパークとは

ジオパークとは、大地（ジオ）が育んだ貴重な財産を多数備えた地域が、それらの保全と活用によって経済・文化活動を高め、結果として地域振興に繋げていく仕組み。

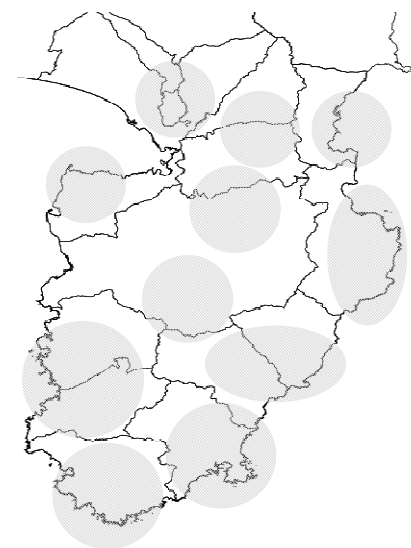
経済活動…主として観光関連産業における、観光客の誘致、ツアー及び関連商品企画、ジオサイトの保全・整備事業等

文化活動…観光案内人等の人材育成、若者への教育と地域への回帰促進、芸術の創作及び発信、ジオサイトそのものの研究や新たなサイトの開発

○伊豆半島ジオパークとは

全体テーマ	「南から来た火山の贈りもの」
(1)	本州に衝突した南洋の火山島 移動と衝突を語る各種の証拠
(2)	海底火山群としてのルーツ 各所に残る海底噴火の証拠と、火山の根
(3)	陸化後に並び立つ大型火山群 伊豆の地形の屋台骨をつくる大型火山群
(4)	生きている伊豆の大地 多様な地形と造形をもたらし、現在も活動中の小火山の集合体・伊豆東部火山群 地殻変動と活断層によって姿を変えゆく大地
(5)	変動する大地と共に生きてきた人々の知恵と文化 地形・噴出物・鉱床・地熱・水の利用と活用 防災・減災への先進的取り組み

○ジオサイト



エリア名	主なジオサイト名
熱海エリア	魚見崎
沼津・三島エリア	三島
伊東エリア	富戸・城ヶ崎海岸北、城ヶ崎海岸南 伊東温泉、大室山
中伊豆北エリア	城山・葛城山、高塚山・巢雲山、修善寺、 下白岩・加殿
中伊豆南エリア	鉢窪山、滑沢
大瀬崎・戸田エリア	大瀬崎
河津・東伊豆エリア	河津・七滝、稲取、熱川・北川、鉢の山
下田エリア	爪木崎、下田港、吉佐美・田牛
南伊豆エリア	石廊崎・池の原、奥石廊崎、妻良・子浦
西伊豆エリア	堂ヶ島・仁科港、仁科川・宝蔵院、岩地・ 石部、雲見
函南エリア	丹那盆地、玄岳

(参考) 静岡県 伊豆半島ジオパーク構想指針書、伊豆半島ジオパーク ウェブサイト (平成 25 年 2 月現在)

2. 重点戦略

(1) 交流産業クラスターの創出と再生

◆戦略のねらい

これまでの観光業に焦点を当てた観光振興から、交流者の視点に立ち、交流者に満足を提供するための、より広がりのある産業クラスターへの再構築を図ることで、伊豆のブランドを再構築し、域内の雇用の創出及び地域活性化を図ります。

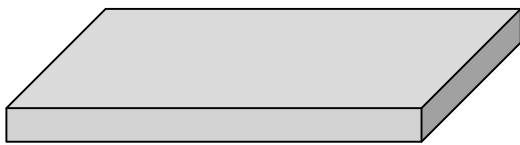
なお、ここでいう交流産業とは、①来訪者と地域住民の交流、②地域住民同士の交流、③来訪者同士の交流を促進する産業とします。

◆施策の展開

施策	実施主体
○交流産業としての連携強化と地域プロジェクトとしての位置づけの明確化 ・県事業としての産業クラスタープロジェクトの検討・推進 ・機能連携の強化、コーディネート機能、コラボレート機会の創出（異業種交流、NPO参加等）	首長会議 県 事業者・民間団体
○ブランディングの推進 ・階層的ブランド戦略（トップ・セカンドブランド等） ・クオリティー確保のための仕組みづくり	首長会議 市町 事業者・民間団体
○地産地消の推進 ・流通改革の推進	市町 事業者
○交流コンテンツの創出と情報発信・提供機能の強化 ・観光テーマの広域的展開（開国ロマン、花回廊、食の都、かかりつけ湯、スポーツツーリズム等） ・ニューツーリズム、MICE ^{※6} の推進 ・外国人向けコンテンツの充実 ・情報発信基地の整備・連携（道の駅の機能強化等）	首長会議 市町 事業者・民間団体
○フィルムコミッションによる美しい半島の発信 ・メディアへの誘致活動	協議会 市町 事業者・民間団体
○観光地としての安全性の向上 ・学校、住民、企業等への防災教育の徹底	首長会議 市町
○富士山、箱根との連携の強化 ・富士箱根伊豆交流圏市町村ネットワーク会議、山静神サミット等の活用	協議会 市町 県
○伊豆半島ジオパークプロジェクトの推進（再掲）	協議会 関係者等
○地域全体でのおもてなしの心の醸成 ・教育機関等による学習機会の提供	市町 教育機関 住民

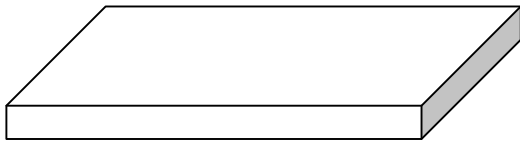
※6 MICE：企業等の会議（Meeting）、企業等の行う報奨・研修旅行（インセンティブ旅行：Incentive Travel）、国際機関等が行う国際会議（Convention）、展示会・見本市、イベント（Exhibition/Event）の頭文字のこと

【交流産業クラスターの創出と再生】



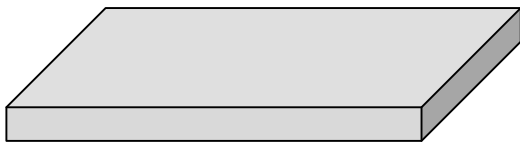
○伊豆半島ジオパークプロジェクト

ジオサイトを中心に、伊豆半島ジオパークプロジェクトを活用した交流を促進



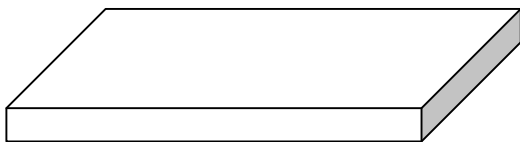
○ファルマバレープロジェクト

「かかりつけ湯」の取組みや、食をテーマとした交流、健康づくりプログラムの支援等「健康」に着目した交流を促進



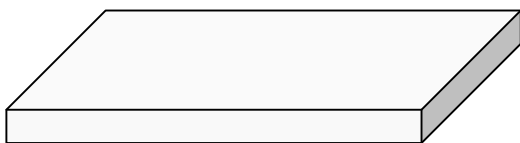
○交流コンテンツの創出と広域展開

(テーマ別交流)
開国ロマン、花回廊、食の都、スポーツ等各種テーマの広域展開を促進



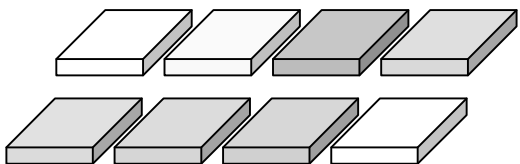
○ニューツーリズム、MICEの推進

平成26年にオープンする「ふじのくに千本松フォーラム」を活用したアフターコンベンションの場を整備・提供



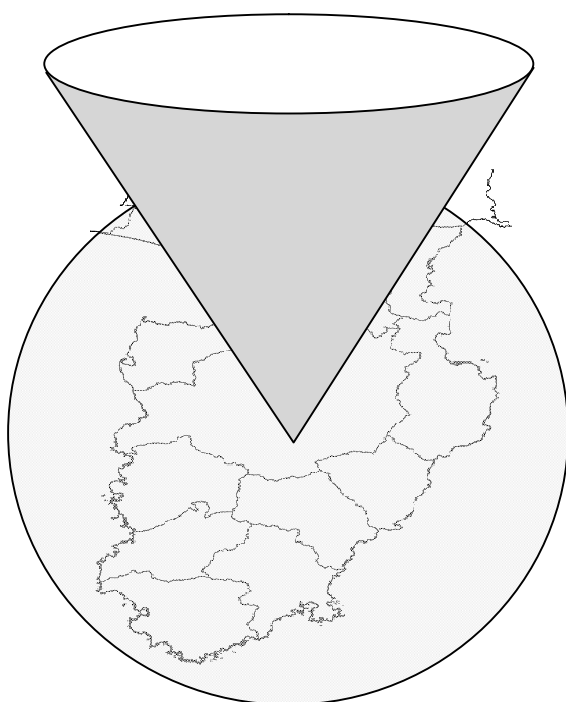
○第一次産業を中心とした産業の集積

農業や漁業等、第一次産業の充実と活性化を推進し、六次産業化についても検討



○各市町が独自に行うプロジェクト

各市町は地域の特徴を活かした交流プロジェクトの開発を継続し、広域展開の可能性を模索



○その他クラスター形成に必要な施策

○フィルムコミッションによる発信

フィルムコミッションを通じて映画等の撮影場所の提供や支援を行うことで、メディアへの露出を増加させ、伊豆の美しさを訴求する

○観光地としての安全性の向上

災害発生時の来訪者の安全を守るために、教育機関、企業、住民に対し、防災教育を徹底する

○地域全体でのおもてなしの心の醸成

地域住民にホスピタリティ教育の場を提供し、来訪者を地域全体でもてなす環境を整備する

○富士山・箱根地域との連携の強化

集客力のある地域と協働で周遊コースを開発するなど、県内の周辺地域のみならず、山梨県・神奈川県との連携の強化を促進する

(2) ネットワーク型交通・都市基盤の整備

◆戦略のねらい

地域活力を支え、命の道である伊豆縦貫自動車道、肋骨道路への戦略的投資や陸・海・空のネットワーク化の推進と、医療・コンベンション等の都市基盤の機能連携を図り、生活者、交流者がともに快適な環境を創造します。

◆施策の展開

施策	実施主体
○命の道としての伊豆縦貫自動車道、肋骨道路等の優先的な整備 ・緊急輸送路をはじめとした道路ネットワーク（道の駅を含む）の整備と強靱化 ・山間部等の追い越し車線の整備	首長会議 県 国 関連団体
○域内流入拡大のための新規道路整備に向けた環境整備 ・伊豆湘南道路等の整備促進（要請）	首長会議 市町 県
○快適な道路環境の整備 ・道路周辺の美化 ・道路景観の整備 ・地域の花を活用した道路名等の検討（既存道路含む） ・道路上での情報発信機能の強化（道の駅の活用等）	首長会議 市町 県 国
○公共交通機関の利便性の向上 ・鉄道のアクセス性向上（新幹線・鉄道・バスの接続等） ・鉄道・バスのＩＣカード全国共通利用化への対応 ・伊豆半島の周遊を可能とする路線バスの運行	首長会議 市町 県 事業者
○首都圏、空港（静岡、羽田等）との接続性の向上 ・駿河湾航路を使った県中部地域、静岡空港との接続性向上（県道２２３号の活用） ・鉄道、バスなどの直行便、乗り継ぎ向上 ・海路による東京、伊豆七島等へのアクセス性向上	首長会議 市町 県 国 事業者
○高次都市機能の構築 ・主要駅舎等のゲートウェイ機能の充実（鉄道高架化、駅舎周辺整備） ・医療系人材養成校（医学部、看護師養成校等）等の誘致 ・文化施設等の再整備	首長会議 市町 県 事業者
○コンベンション機能、医療機能等の都市機能のネットワーク化と機能分化の推進 ・ふじのくに千本松フォーラムの活用 ・「病・病」「病・診」「医・福」等施設間の広域ネットワーク化の推進	首長会議 市町 事業者

(3) 柔硬一体のしなやかな防災・減災対策の構築

◆戦略のねらい

伊豆半島ジオパークの防災教育機能を最大限活用するとともに、国・県・市町等の主体間の連携、発災前・発災後のハード面及びソフト面における一体的な対策の推進により、東海・東南海・南海3連動地震や神奈川県西部の地震等による大規模地震等に対して、生活者及び交流者の安全を最優先に伊豆全域がしなやかに対応することで、伊豆の安全性を向上させます。

◆施策の展開

施策	実施主体
○県策定の「地震・津波対策アクションプログラム（仮称）」（策定中）に基づく災害対策の推進	県 市町 地域防災団体
○交流者を含む避難誘導対策の徹底 ・伊豆としての誘導ルールの検討・策定 ・観光施設等における訓練の実施	首長会議 市町 事業者
○防災・減災に向けた広域的な展開 ・消防の広域化の推進 ・広域的な防災拠点・受援拠点の整備 ・広域訓練の実施	県 首長会議 市町 地域住民
○命の道の優先的な整備（伊豆縦貫自動車道、肋骨道路等） ・災害時に必要な道路としての早期完成を推進 ・災害発生時の活用が想定できる道路の重点整備	県 国 首長会議 市町
○伊豆版櫛の歯作戦（検討中）に基づく協力体制の構築	県 国 首長会議
○観光地としての安全性の向上 ・学校、住民、企業等への防災教育の徹底 ・安心して訪れることのできる地域を全国にアピール	首長会議 市町 教育機関
○伊豆半島ジオパークの活用等による防災意識の向上 ・自然を知るための教材としての防災教育への活用 ・学校教育における体験学習	協議会 教育機関

（４）官・民協働による推進体制の再構築

◆戦略のねらい

伊豆が一体的な地域づくりに取り組むためのコーディネート機能等の推進機能強化と、戦略の推進を担う人材・組織を育成することで、地域づくりの目標実現に向けた戦略展開の確実な推進と、効率性・効果性の向上を図ります。

なお、具体的な組織のあり方や形成方法については、ワークショップ等で地域住民の意見を収集しながら、さらに検討を進めていく予定です。

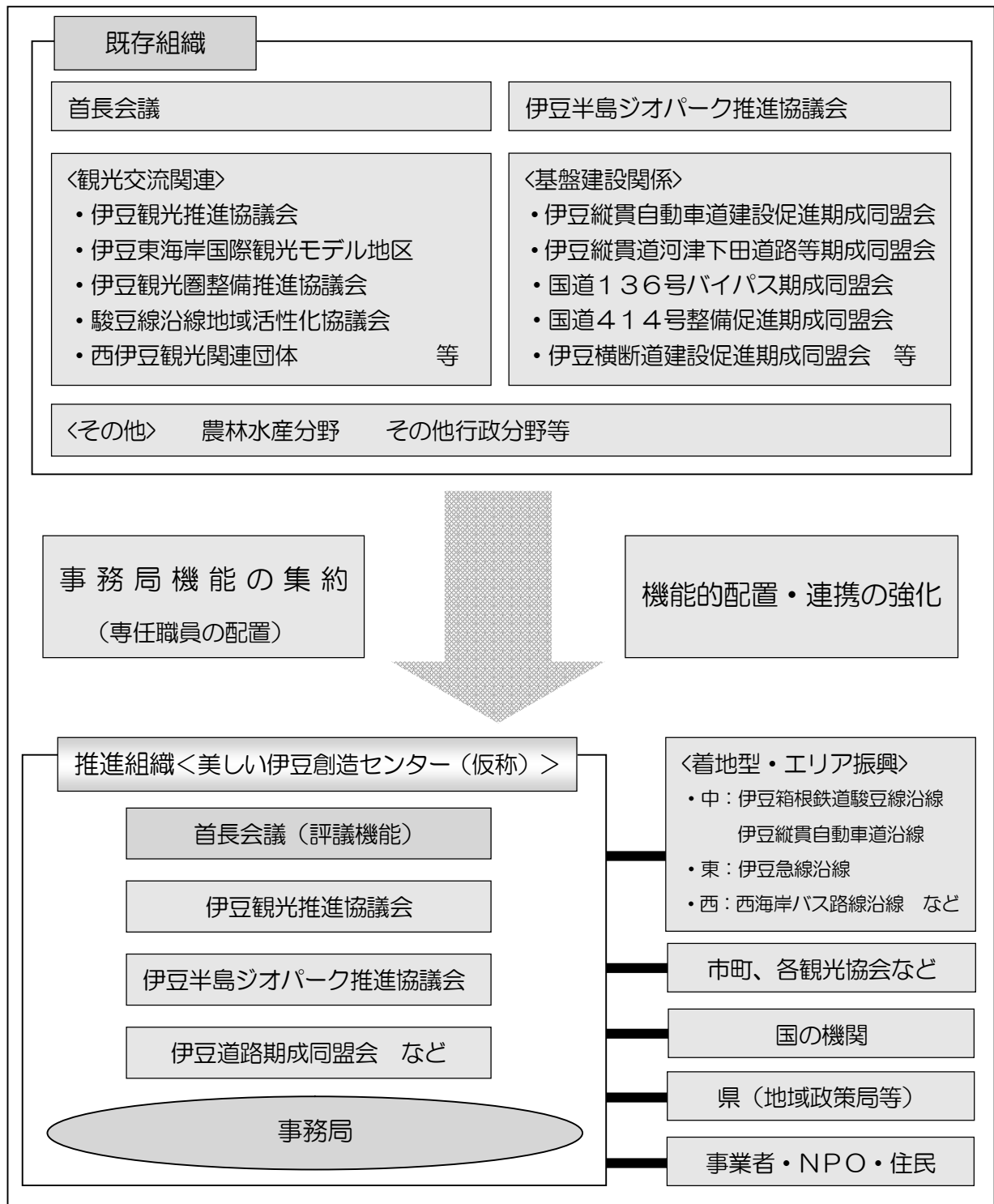
◆施策の展開

施策	実施主体
○各種協議会等の整理（統廃合）と協議会の事務局機能の集約、効率的運営 ・新たな推進機関設立に向けた調整（事務局機能の集約・運営） ・伊豆観光推進協議会の再編（交流産業としての強化・再編）	首長会議 県 市町 各種協議会等
○伊豆の未来に必要な人材・組織の育成 ・伊豆のリーダー育成のための研修等の実施 ・学校教育における地域を大切にする心の醸成	首長会議 市町 教育機関 事業者
○行政機能の連携に関する検討 （広域連合を含めた将来課題としての検討）	首長会議 市町

◆推進機関の再編イメージ

本グランドデザインの推進を地域が一体的に実行するために、統一的な推進機関が不可欠です。したがって、可能な限り既存の各種協議会の持つ機能を集約及び連携を強化し、伊豆半島地域独自の新たな推進機関を設立していきます。

【再編イメージ図】



第4章 推進に当たって

1. 推進力の確保

(1) 推進する仕組み

本グランドデザインの推進は、首長会議が中心となり、各主体の参画のもとで推進していきます。推進力を確保していくために、第3章（4）の戦略にある推進体制の再構築が急務であり、組織再編後は、推進組織と首長会議との相互連携の中で進捗管理をしていきます。

また、戦略展開は民の参画を前提にしていますが、その施策の拾い出しや掘り起こしは十分になされていないため、フォーラムやワークショップの開催等により各主体に参画を促し、施策に広がりを持たせることで推進力を高めていきます。

(2) 人材の確保

地域づくりの推進において、人材は最大の資源と言えます。伊豆全体で人材を育てる仕組みについて、推進組織の再編と併せて検討します。

(3) 資金の確保

地域づくりにおいては、推進のための資金確保も大変重要な課題です。市町の財政が逼迫している中で、国・県補助金のみならず民間資金の取り込みも必要です。また、協議会への負担金等様々な目的で分散している資金を集約化し、効率的に活用する仕組みづくりも必要です。これらも、第3章（4）の推進体制の再構築と併せて検討します。

2. 各主体の役割について

施策を確実に推進していくためには、各施策における推進主体とその役割を明確にする必要があります。各主体の役割は次の通りです。

主な主体	役割
市町	・グランドデザインを踏まえた基礎単位として地域づくりの推進 ・広域的展開への積極的な参画 ・推進組織設立に向けた調整（人的、財政的負担） ・地域のまちづくり団体、住民への参画呼びかけ
県	・グランドデザインを踏まえた所管施策の展開 ・広域的な施策展開への積極的な参画（参画または人的、財政的支援） ・国の助成事業等の積極的活用・取り込み
国（出先機関）	・グランドデザインを踏まえた所管施策の展開 ・広域的な施策展開への積極的な参画（参画または財政的支援）
民間団体（企業・NPO等）	・地域づくり活動への積極的な参画（中心的活動） ・広域的な施策展開への積極的な参画 ・財政的支援
住民	・地域づくり活動への積極的な参画 ・来訪者との心地よい交流（もてなしの心）
協議会等	・地域づくりへの積極的な参画（中心的活動） ・会員へのグランドデザインの理解と積極的な参画の呼びかけ
交流者	・美しい地域づくりへの協力 ・伊豆への評価とその発信

世界から称賛され続ける伊豆に向けて

私たちが暮らす伊豆は、実に魅力に満ちた美しい半島です。

世界の名だたるリゾートを凌ぐ美しさと多様な魅力を有し、数多くの称賛も得てきました。

にもかかわらず、伊豆は元気、自信を失いかけています。長引く全国的な景気低迷の中で、かつての賑わいを懐かしみ、廃業した宿泊施設や店舗も散見されます。若者が働く場は限られ、高齢化の進行により、展望よりも不安を耳にする機会が増えています。

一方で、伊豆縦貫自動車道の南進は伊豆に大きなインパクトを与え、ジオパークが新たな地域の期待としてクローズアップされており、この機を確実にとらえれば、地域としてのさらなる発展も可能となります。

まさに、伊豆は時代の岐路にあります。もう一度、世界の中で美しく輝く半島、リゾートに躍進するのか、日本の一地域、一観光地に甘んじるのか。

私たちは、前者を選択します。次代へ、そして未来へ、この美しく魅力ある地域を継承し、その輝きを持続させていくことが私たちの責務です。

そのために、伊豆が一つにまとまり、自信と誇りを持てる地域へと再生し、世界が称賛する美しい半島へと、もう一段の高みに地域を押し上げていく必要があります。

ここにまとめた伊豆半島のグランドデザインは、そのための羅針盤であり、ロードマップです。ただし、本グランドデザインは下絵であり、完成させるには多くの人が色付けをしていく必要があります。

グランドデザインを策定した私たち伊豆の首長が、伊豆全体の連携や各市町の行政運営の中で率先して行動するとともに、民間企業、NPO、住民等の活発な活動との相互の刺激の中で、実現に向け大きな推進力を確保していくこととします。

平成25年4月1日

沼津市長	栗原 裕康
熱海市長	齊藤 栄
三島市長	豊岡 武士
伊東市長	佃 弘巳
下田市長	楠山 俊介
伊豆市長	菊地 豊
伊豆の国市長	望月 良和

東伊豆町長	太田 長八
河津町長	相馬 宏行
南伊豆町長	鈴木 史鶴哉
松崎町長	齋藤 文彦
西伊豆町長	藤井 武彦
函南町長	森 延彦

参考資料

1. 伊豆半島地域のデータ

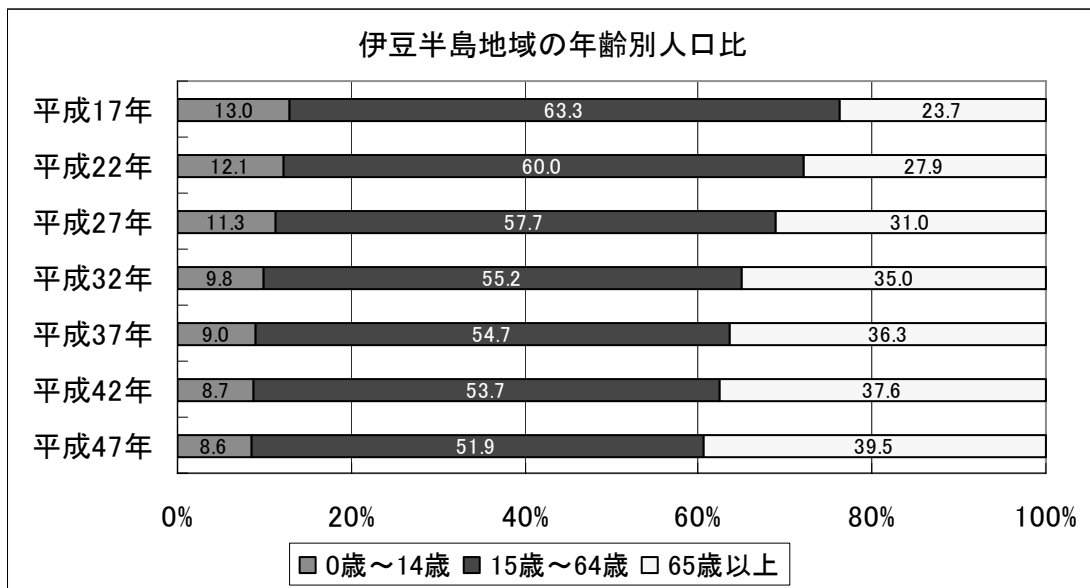
【伊豆半島地域の推定人口】

(単位：人)

	平成 22 年	平成 27 年	平成 32 年	平成 37 年	平成 42 年	平成 47 年
沼 津 市	202,304	194,675	186,410	176,846	166,508	155,810
熱 海 市	39,611	37,052	34,172	31,144	28,114	25,190
三 島 市	111,838	109,952	107,150	103,420	99,087	94,404
伊 東 市	71,437	68,767	65,220	61,128	56,768	52,400
下 田 市	25,013	23,344	21,677	19,943	18,192	16,479
伊 豆 市	34,202	31,808	29,502	27,147	24,790	22,484
伊豆の国市	49,269	47,903	46,186	44,123	41,832	39,420
東伊豆町	14,064	13,054	12,036	10,965	9,885	8,820
河 津 町	7,998	7,559	7,087	6,604	6,130	5,675
南伊豆町	9,516	8,942	8,318	7,683	7,060	6,457
松 崎 町	7,653	7,105	6,543	5,985	5,451	4,933
西伊豆町	9,469	8,521	7,638	6,774	5,962	5,216
函 南 町	38,571	37,780	36,668	35,250	33,606	31,805
合 計	620,945	596,462	568,607	537,012	503,385	469,093

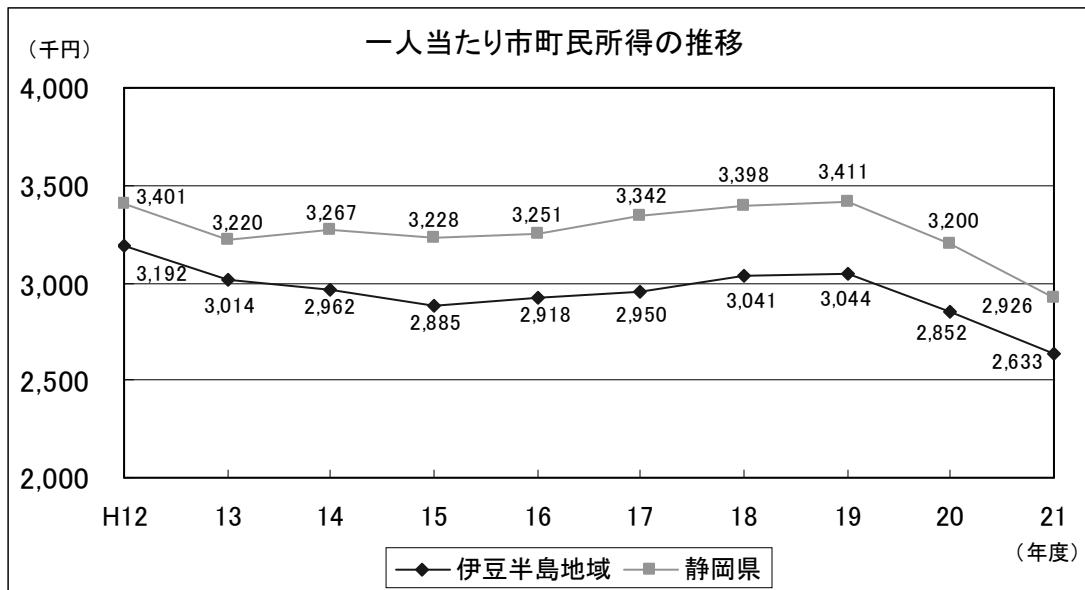
(参考：総務省国勢調査要覧、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成 25 年 3 月推計）」 ※平成 27 年度以降は予測値

【伊豆半島地域の年齢別人口比】



(参考：総務省国勢調査要覧、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成 25 年 3 月推計）」 ※平成 27 年度以降は予測値

【伊豆半島地域の一人当たり市町民所得の推移】



(参考：静岡県「しずおかけんの地域経済計算」、「静岡県統計年鑑」)

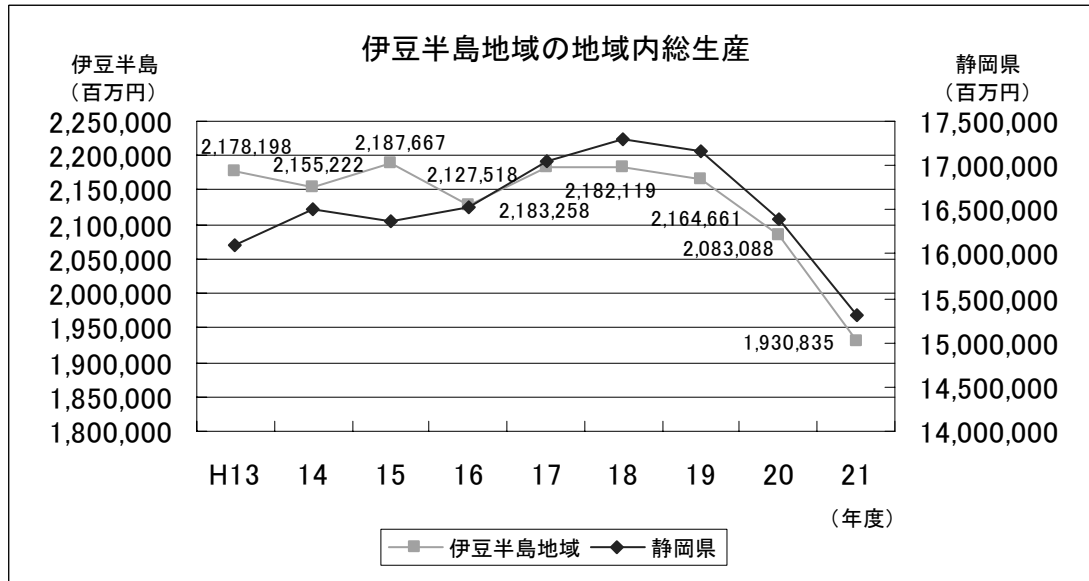
【伊豆半島地域の市町民総所得】

(単位：百万円)

	平成 17 年	平成 18 年	平成 19 年	平成 20 年	平成 21 年
沼 津 市	728,150	765,374	767,173	702,453	638,395
熱 海 市	108,045	110,026	107,226	101,285	93,928
三 島 市	342,263	351,800	350,152	326,758	301,654
伊 東 市	173,616	173,140	167,198	161,043	147,204
下 田 市	67,707	67,412	67,582	62,586	58,643
伊 豆 市	93,760	95,671	94,035	89,149	81,549
伊豆の国市	147,234	147,333	150,985	135,062	123,813
東伊豆町	35,654	35,486	35,240	34,502	31,006
河 津 町	18,563	18,515	18,705	18,148	16,855
南伊豆町	19,629	19,529	19,448	18,406	16,987
松 崎 町	18,567	18,817	18,884	17,812	16,445
西伊豆町	23,477	23,786	23,279	22,870	21,580
函 南 町	104,637	106,108	106,429	104,218	99,625
合 計	1,881,303	1,932,996	1,926,336	1,794,292	1,647,684

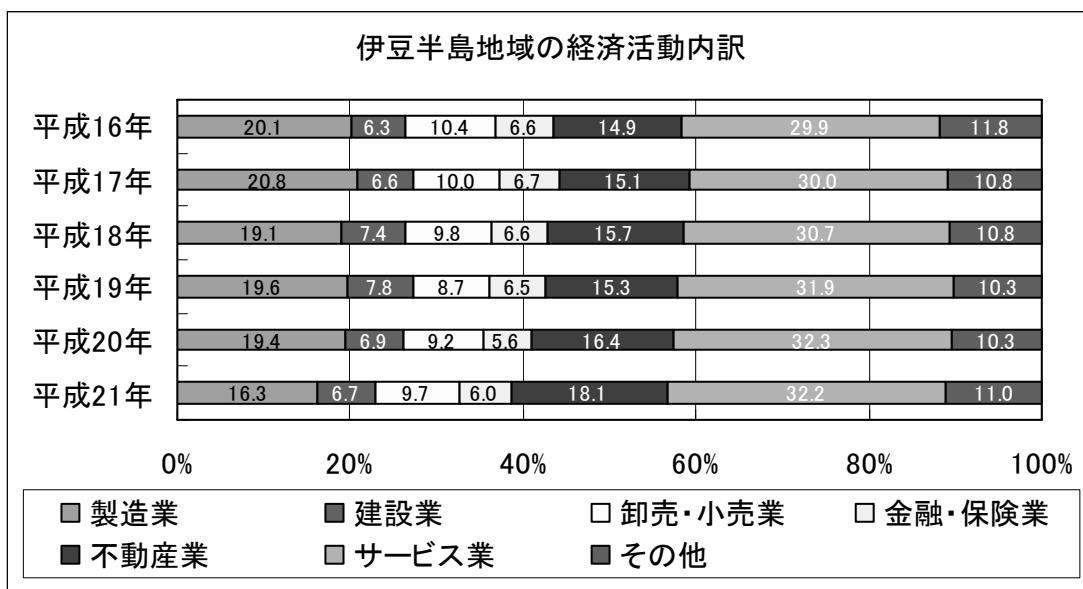
(参考：静岡県「しずおかけんの地域経済計算」)

【伊豆半島地域の地域内総生産】



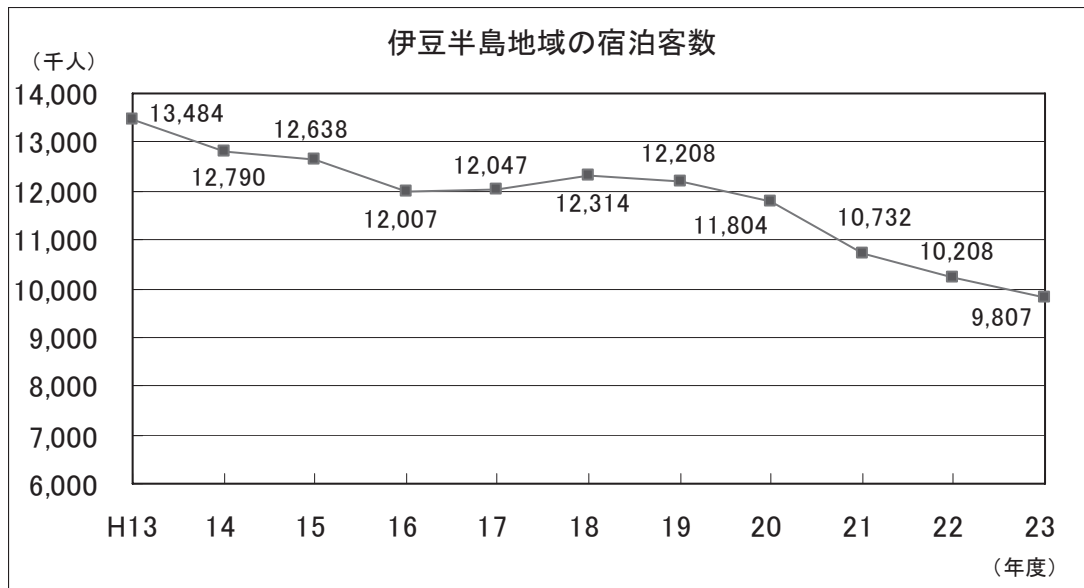
(参考：静岡県「しずおかけんの地域経済計算」)

【伊豆半島地域の経済活動内訳】

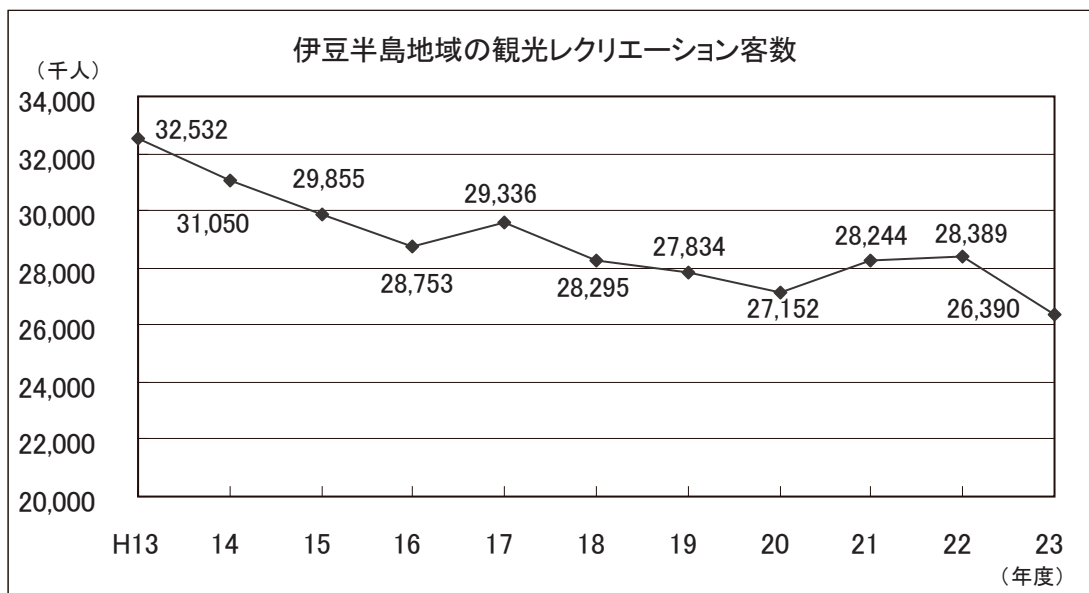


(参考：静岡県「しずおかけんの地域経済計算」)

【伊豆半島地域の宿泊客数】



【伊豆半島地域の観光レクリエーション客数】



【静岡県内の主要行祭事等の状況（上位１０位）】

○ 行・祭事・郷土芸能

（単位：人）

順位	市町名	名称	平成23年度	前年比(%)
1	三島市	三島夏まつり	510,000	10.9
2	静岡市	清水七夕まつり	462,900	△6.7
3	富士市	毘沙門天大祭	200,000	33.3
4	下田市	下田太鼓まつり	150,000	7.1
5	東伊豆町	雛のつるし飾りまつり	120,351	1.6
6	富士宮市	富士宮秋まつり	100,000	53.8
7	静岡市	秋葉山大祭	80,000	20.0
8	熱海市	こがし祭り山車コンクール	69,000	0
9	藤枝市	清水山縁日	50,000	0
10	熱海市	来宮神社初詣	50,000	△33.3

○ 花火大会

（単位：人）

順位	市町名	名称	平成23年度	前年比(%)
1	熱海市	熱海海上花火大会	420,022	73.6
2	袋井市	ふくろい遠州の花火	420,000	2.4
3	焼津市	焼津海上花火大会	260,000	0
4	沼津市	沼津夏まつり・狩野川花火大会	240,000	△29.4
5	静岡市	安倍川花火大会	200,000	△66.7
6	伊東市	按針祭海の花火大会	190,000	△5.0
7	伊東市	伊東温泉夢花火	175,000	775.0
8	藤枝市	藤枝花火大会	145,000	3.6
9	島田市	大井川大花火大会	140,000	△12.5
10	浜松市	舘山寺花火大会	80,000	0

○ 花見

（単位：人）

順位	市町名	名称	平成23年度	前年比(%)
1	河津町	河津桜祭り	945,928	△10.1
2	南伊豆町	みなみの桜と菜の花まつり	267,000	△27.8
3	下田市	水仙まつり	224,000	△17.0
4	熱海市	熱海梅園梅まつり	187,318	△4.5
5	藤枝市	藤枝蓮華寺池公園藤まつり	185,200	△7.8
6	磐田市	熊野の長藤まつり	147,000	△22.6
7	伊東市	伊豆高原桜まつり	118,000	△38.5
8	下田市	あじさい祭	112,800	0
9	伊豆市	修善寺モミジまつり	79,668	△4.6
10	伊豆市	修善寺梅まつり	61,685	△19.2

（参考：静岡県「静岡県観光交流の動向」）

2. 伊豆半島グランドデザインの策定経過

(1) 全体スケジュール

日時	場所	内容
平成24年 5月29日(火)	明治館(伊豆市)	伊豆半島6市6町首長会議
8月 7日(火)	伊豆市役所	首長インタビュー
8月 7日(火)	伊豆の国市役所	首長インタビュー
8月 7日(火)	東伊豆町役場	首長インタビュー
8月 9日(木)	松崎町役場	首長インタビュー
8月 9日(木)	西伊豆町役場	首長インタビュー
8月14日(火)	三島市役所	首長インタビュー
8月17日(金)	函南町役場	首長インタビュー
8月23日(木)	熱海市役所	首長インタビュー
8月27日(月)	南伊豆町役場	首長インタビュー
8月28日(火)	沼津市役所	首長インタビュー
8月29日(水)	河津町役場	首長インタビュー
8月29日(水)	下田市役所	首長インタビュー
9月19日(水)	伊東市役所	首長インタビュー
11月14日(水)	伊東市役所	伊豆半島6市6町首長会議幹事会
12月25日(火)	ラフォーレ修善寺	専門部会
平成25年 1月21日(月)	伊東市役所	伊豆半島6市6町首長会議幹事会
1月30日(水)	三島プラザホテル	伊豆半島6市6町首長会議
3月12日(火)	伊豆市民文化ホール	ワークショップ
3月19日(火)	伊東市役所	伊豆半島6市6町首長会議幹事会

(2) 伊豆半島地域の首長へのインタビュー内容

伊豆半島の目指すべきイメージ像、世界・日本の中での伊豆地域の位置づけ、伊豆地域内での市町等の役割、広域的課題等の整理を行うため、7市6町の首長にインタビューを実施

(3) 伊豆半島6市6町首長会議及び幹事会の内容

日時	場所	概要
平成24年 5月29日（火）	明治館（伊豆市）	【首長会議】 伊豆半島グランドデザイン策定の同意
11月14日（水）	伊東市役所	【幹事会】 グランドデザイン策定にかかる基本的な考え方について意見交換
平成25年 1月21日（月）	伊東市役所	【幹事会】 専門部会での意見を踏まえ、伊豆半島グランドデザイン（素案）のまとめ及び意見交換
1月30日（水）	三島プラザホテル	【首長会議】 伊豆半島グランドデザイン（素案）の承認及び意見交換
3月19日（火）	伊東市役所	【幹事会】 伊豆半島グランドデザイン（案）について報告及び意見交換

(4) 専門部会の概要

- 開催日：平成24年12月25日（火）
- 会 場：ラフォーレ修善寺
- 参加委員数：12名
- 内 容：伊豆半島グランドデザインの概要に基づいてテーマごとに討論を実施
 - ・ 伊豆半島地域の現状について
伊豆半島地域の現状の問題点として、ブランド力の低下やマーケティングの視点の不足、各市町の連携不足があげられる。
 - ・ 伊豆半島グランドデザインにおける基本的な考え方について
基本理念では「伊豆が一つになる」という強い信念を持ち、各市町が協力して本気で取り組むべき。
 - ・ 各戦略に基づく施策について
伊豆半島地域の高い潜在能力が活用できるような施策を考案する必要がある、伊豆半島の強みを精査する必要がある。また、災害対策等伊豆半島の弱みを軽減していくための施策も必要である。

委員一覧

役職	氏名	役職名
座長	大坪 檀	静岡産業大学総合研究所 所長
委員	青山 茂	株式会社シード 取締役副社長
	飯倉 清太	特定非営利活動法人 NPO サプライズ 理事長
	今井 利昭	社団法人静岡県観光協会 しずおかツーリズムコーディネーター チーフ
	大儀 健一	国土交通省中部地方整備局 沼津河川国道事務所 所長
	垣内 俊一	静岡県賀茂危機管理局 局長
	加藤 賢二	小松ビューホテル 代表取締役社長
	芹澤 章裕	伊豆箱根鉄道株式会社 総務部広報課長
	高木 敦子	有限会社アムズ環境デザイン研究所 代表取締役
	田中 孝治	地域・産業研究所 所長
	野地 誠	伊東ホテル聚楽 総支配人
	森 貴志	静岡県東部地域政策局 局長

(50 音順)

(5) ワークショップの概要

- 開催日：平成25年3月12日（火）
- 会 場：伊豆市民文化ホール
- 参加人数：33名（4グループ）
＜観光関係10名、商工関係4名、市民団体等6名、行政関係13名＞
- 内 容：（テーマ1）伊豆半島に必要な戦略について
 - ・ 伊豆縦貫自動車道を中心とした道路整備の促進
 - ・ 伊豆全体での統一イベントの実施
 - ・ 伊豆の将来に必要な人材を育成するシステムづくり
 - ・ NPO、ボランティア団体同士の交流の促進

等

- （テーマ2）グランドデザインにおける推進体制について
 - ・ ミッションを明確にした組織の設立
 - ・ 「決断力」と「やめる勇気」をもった組織形成の推進
 - ・ 組織内におけるプロデューサー機能の設置
 - ・ 民間の人材の活用

等

伊豆半島グランドデザイン

発 行：平成 2 5 年 4 月

編 集：伊豆半島 7 市 6 町首長会議

事務局：伊豆半島 7 市 6 町首長会議 事務局

（伊東市 企画部 行政経営課）

〒414－8555 静岡県伊東市大原二丁目 1 番 1 号

TEL：0557 - 32 - 1061 FAX：0557 - 36 - 1104

E - mail：gyousei@city.ito.shizuoka.jp

「伊豆半島 7 市 6 町首長会議」は、伊豆半島内の市町に共通する様々な行政課題の解決に向け、相互に協力し合うことを目的に、沼津市、熱海市、三島市、伊東市、下田市、伊豆市、伊豆の国市、東伊豆町、河津町、南伊豆町、松崎町、西伊豆町、函南町の 7 市 6 町で構成している組織です。